



VOL. 5
1994



夕張川(竜仙峡と滝の上公園)

C O N T E N T S

■石狩川名所めぐり

上砂川町 上砂川岳日本庭園 ————— 3

当麻町 当麻鍾乳洞 ————— 4

■HISTORY 君 尹彦

大河の謎・石狩川の長さに挑む ————— 5～8

■流域市町村の紹介

栗山町 緑や水を中心とした快適なまちづくり — 9

南幌町 浸水から治水、そして親水のまちに — 10

特集 石狩川文学散歩 ————— 11・12

本庄陸男 / 西野辰吉 / 国木田独歩
「石狩川」 / 「東方の人」 / 「空知川の岸边」

■河川事業の紹介

北海道開発局 ————— 13

「河川中期整備試案」公表される

北海道開発局旭川開発建設部 ————— 14

牛朱別川分水路事業
十勝岳直轄火山砂防事業

北海道開発局石狩川開発建設部

千歳川放水路 ————— 15・16

北海道

新川・星置川水系河川環境管理基本計画 ————— 17

札幌市

準用河川改修事業 東屯田川遊水地の多目的利用 — 18

■川と人通信 / 石狩川の仲間たち

大魚編 神か？怪物か？幻のイトウ伝説よ、ふたたび — 19

■トピックス ————— 20

千歳サーモンパーク・オープン
「魚がのほりやすい川づくり推進モデル事業」の指定

■石狩川振興財団の活動報告 — 21・22

石狩川の日
親水体験親子バスツアー
忠別ダムフェスタ'94「宗次郎コンサート」開催

上砂川町

『上砂川岳
日本庭園』

温泉・キャンプ場で
自然を体験。

無重力科学館で無重力を体験。

自然の美しさと、

科学の楽しさを兼ねもつ街。

石狩川支流パンケ(下の意)ウタシナイ(砂の多い川の意)川の上流部は、両岸が切り立った渓谷の状をなし、岩肌にしがみつくウルシ、イタヤカエデ、エゾヤマザクラ等は、秋が深まるにつれ鮮やかな紅葉を織りなしています。

その一角に単純重曹冷泉を利用しての上砂川岳温泉があり、人が渡るとセンサーが感知して18種類の野鳥の音が聞えてくる野鳥の橋の対岸には、約2haの日本庭園が整備されています。花梅、秋田杉、水松、カエデ、藤、ツツジ、シヤクナゲ等の樹木が三段滝、池、東屋、八ツ橋、庭門、石庭と日本情緒をかもしだす。隣接して高山植物のロックガーデンとログハウス2棟を備えたキャンプ場もあります。さらに渓谷を辿ると、町の水源地があつて周辺を水源公園として整備中(今秋完成)です。

▼野鳥の橋



▲上砂川岳温泉



▲紅葉

INFO RMATION

無重力科学館

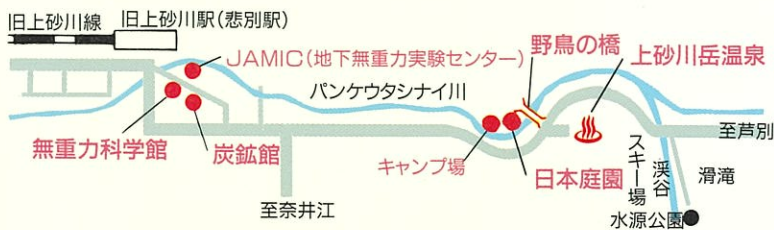
平成3年に開所した地下無重力実験センターの一般見学希望に対応するため、町ではコンベンションホールに併設して10mのミニ落下塔(1秒間)を備えた無重力科学館を建設中です(11月2日開館)。

実験センター本体の仕組み、実験成果、力学系動態模型、無重力マジックビジョン、パソコンで遊べるデジタルサイエンスバーラー、学校の理科授業を受け入れる多目的ワークスペースのほか、エントランスホールには、落下カプセルのダミーが据え付けられています。

1秒間の無重力を得られる落下塔は、児童生徒の実験の他、科学者の基礎実験も可能な秀れものです。



▲無重力科学館



KAMISUNAGAWA

所めぐり



当麻町

『当麻鍾乳洞』

恐竜たちが地を歩き、空を飛び、水中を泳いでいた

1億5千万年前のジュラ紀に生まれ、

その神秘的な姿は古代から続くロマンを

私たちに語りかけてくるようです。

石狩川名



当麻鍾乳洞は、昭和32年、石灰岩の採掘中に偶然発見されたもので、洞窟内は上、中、下段の3段に分けられ、さらに5つの部屋に区切られています。全長は135m、高さは7.8mと、鍾乳洞のスケールとしては決して大きなものではありませんが、その内容、質はきわめて貴重な価値をもっています。

その大きな特徴は、不純物が少ないために結晶度が良く、透明度が高いこと。また、鍾乳洞としての条件は全て揃っており、氷のつららのように天井から落ちる石灰石を含む水滴がだんだん積み重なり、筍のようになっていった石筍、つらら石と石筍がつながって柱となった石柱、傾いた天井、壁を伝って落ちる石灰水が薄い膜を造るカーテン、結晶がぎっしりと柱状に並んで延びたながれ石（フローストーン）などがあります。さらに、天井から先端まで同じ太さで直線状に下がり、中空のパイプ状になっている鍾乳管は、世界でも大変珍しいもので、学術的にもきわめて価値ある貴重な鍾乳石です。

なお、鍾乳洞内の上段、中段、下段と分けられた形状は、まるで2頭の龍が横たわって見えることから、発見された当初は、当麻町に伝わる蟠龍伝説にちなんで、「蝦夷蟠龍洞」と呼ばれていました。



▲当麻鍾乳洞



▲グリーンパーク



INFORMATION

世界の昆虫館



館内の1階と2階は標本展示室、蝶を中心に世界中の美しい昆虫や珍しい昆虫、学術的にも貴重な昆虫たちの標本が展示されています。さらに、昆虫たちの標本だけでなく、生きた昆虫たちとのふれあいを体験する施設として生態観察室も併設しています。「パピヨンシャトー」は、実際に見て、ふれて、体験する昆虫ランド。当麻町に限らず近郊市町村からも多くの来場者が訪れています。



▲虫のおきもの

▲虫の広場

大河の謎・ 石狩川の長さにと挑む

大河と呼ばれるのは、水量が多いとか、流域面積が広いとか、川幅が長い等、いろいろな意味を含んでいるのだろう。広辞苑には「大きな河、おおかわ」と説明がついているが、その中に広漠とした底知れぬ未知の世界がかすんでいるように感ずるのは、思いすぎだろうか。しかし、川口と水源の間の道程がいかほどあるかが、大河の条件の大切な物差しになるだろうことは間違いない。小さい川でも、その長さとか流路延長をきめるとなれば、いろいろ問題がありそうだ。川口や水源をいかに特定するか、流路をどこにとるか、法制上の管轄区分等、素人考えではとてもきめられそうにない。いわんや北海道の心臓部を貫流する石狩の大河となれば、たやすく事が明らかになるとは思えない。

今では三角測量網がはりめぐらされ、宇宙衛星を使った地図づくりがすすんでいるから、石狩川の水源から川口までの写真を一枚の画面で見ることさえ容易になり、その流路延長を知ろうとすれば、あれこれ資料は整っている。手元にある国土地理院『地理データハンドブック '93』によれば、石狩川水系の項に、幹川流路延長は二六八kmとある。ちなみに、その河川数(支流を含め)は四三二、これの延長三、五九六・六km、流域面積一四、三三〇km²とっている。

こうした情報を手軽に入手できるようになるまでには、実に多くの人たちが生命の危険をいとわず、多大の労苦を積み重ねてきたのである。これは、大河ゆえに解きかねた謎、石狩川の長さを明らかにしようと、汗と涙を流した人々の物語である。

History

里数詳なる事を知らず

石狩川流域の様子を、ややくわしく文献で知ることができるようになるのは、十七世紀後半からである。たとえば、天明五年(一七八五)蝦夷地と呼ばれた北海道を一巡した江戸幕府の普請役佐藤玄六郎の記録から、二百年ほど前の人たちの石狩川に関する知識を推し量ってみよう。

第六二號
北川五右衛門
石狩山嶺
ニ登リ第
一ノ峯點
ヲ定メ西
北ニカフマ



此地(北海道)、島中にての大河有り。蝦夷皆其流に臨で居。源は東部の地メナシ、ユウベツの諸山より流出で、遙か下リ二川と成り、一川は北に流れてテシホ浜へ落ちるを以て、是れをテシホ川と云。

其一片、島の中央を西に流れ、諸山の谷川合流してイシカリ浜に落つ。即ち是をイシカリ川と云。蝦夷の川舟、百里余は昇れども、其源の里数詳なる事を知らず。左右平原の地、広々として草木肥え、其幅員も計難し。(佐藤玄六郎『蝦夷拾遺』)

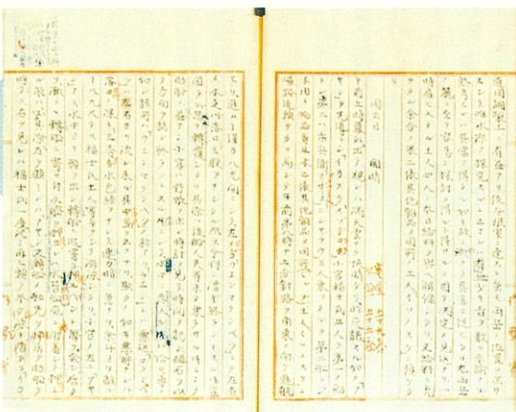
彼は北海道の現地調査をしたとはいえ、石狩川の下流部を見ただけで、上流にまで足をはこんだわけではない。流路延長を測ったり体感したのではないから、「蝦夷の川舟、百里余は昇れども、其源の里数詳なる事を知らず」というのは伝聞の書き取りである。そこから、二、三百年前の北海道で、石狩川の長さを百里以上もある大河だと言いつついた様子を目に浮かべることはできるが、誰も

その正しい里数を知る由はなかった。それでは、石狩川の上流部に踏み込んだ人の知識はどうだったのか。佐藤より二十年ほどあとになって、石狩川を探検した近藤重蔵の記録には次のように書かれている。

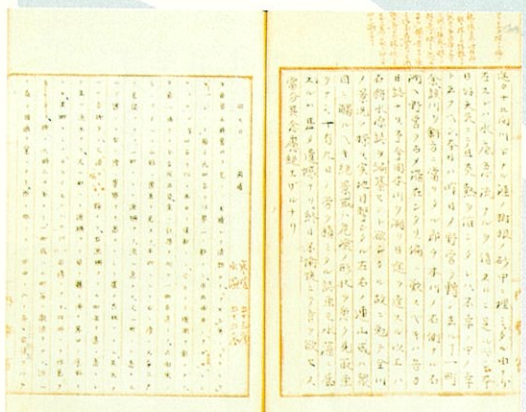
イシカリ川の義は、惣蝦夷地之中央第一之大河にて、川筋水源まで凡百里余之間、左右打開け平地沃野のみにて、林木繁茂、夷人所々に住居、川上迄夷人之根魚、夥敷有之。(近藤重蔵『惣蝦夷地御要害之儀二付心附候趣申上候書付』、文化四年)

現地で見聞を深めた近藤にしても、石狩川の流路延長を「百里余」としかつかんでいない。これが当時の最良質の情報であったといえよう。

このような時代は長くつづいた。幕末期にいたって、石狩川を見聞する人たちが急にふえ、視察者ラッシュとなるが、やはり「百里余」に変わりはなかった。たとえば次のような記録を残す人も出てくる。

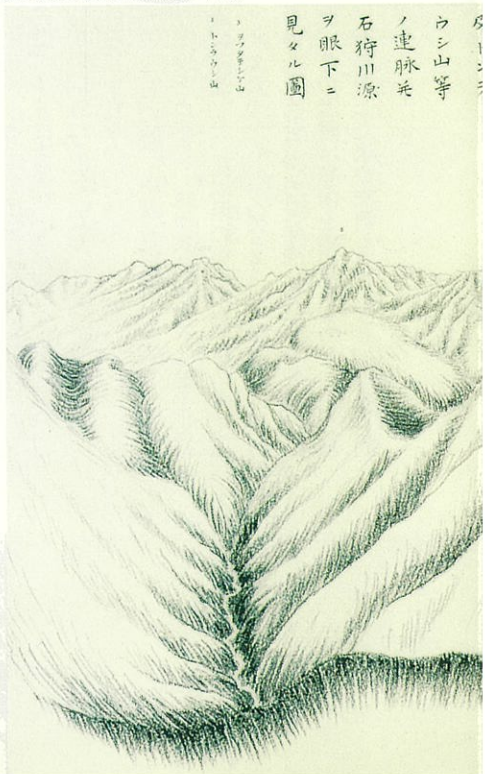


札幌巡回日誌 九月六日の条
(東京大学史料編纂所蔵)



札幌巡回日誌 九月七日の条
(東京大学史料編纂所蔵)

高橋不二雄画 溯石狩画帖より
(東京大学史料編纂所蔵)



石狩は野中にして河の流有。甚だ大河にして此辺に山なし。扱、イシカ河源は數百里にして、川巾百五十間余も有之。右河上五六拾里の間迄、夷人の住家、或は所々番屋有て、舟往來す。水上二百里計迄は行し者も有之候得共、從是先知る人なし。(依田次郎助『蝦夷地旅行記録』、安政元年)

噂はだんだん大きくふくらんで、一部の人の間で、「石狩川流路延長、數百里」と伝えられたようで、計測されぬまま大河たる故の謎を秘めつづけたのである。「石狩川は余程大河にて、幅狭き所は五六十間、広き所は百間余もあるべし。渺漫たる河なり。此水源、此頃松浦竹四郎探索せしか、カムイコタンと云所より三四十里も深く探りしか、竟に水源を尋ね得ずして帰たり。古昔、間宮林蔵も同様にて水源を尋得ず。一説には男アカン山の麓より出るといへども、分明ならずと云ふ」(玉虫左太夫『入北記』、安政四年)のが、幕末期の実況を正直に述べているように思う。このような状態で明治期をむかえることになる。

ねばり強く基礎調査

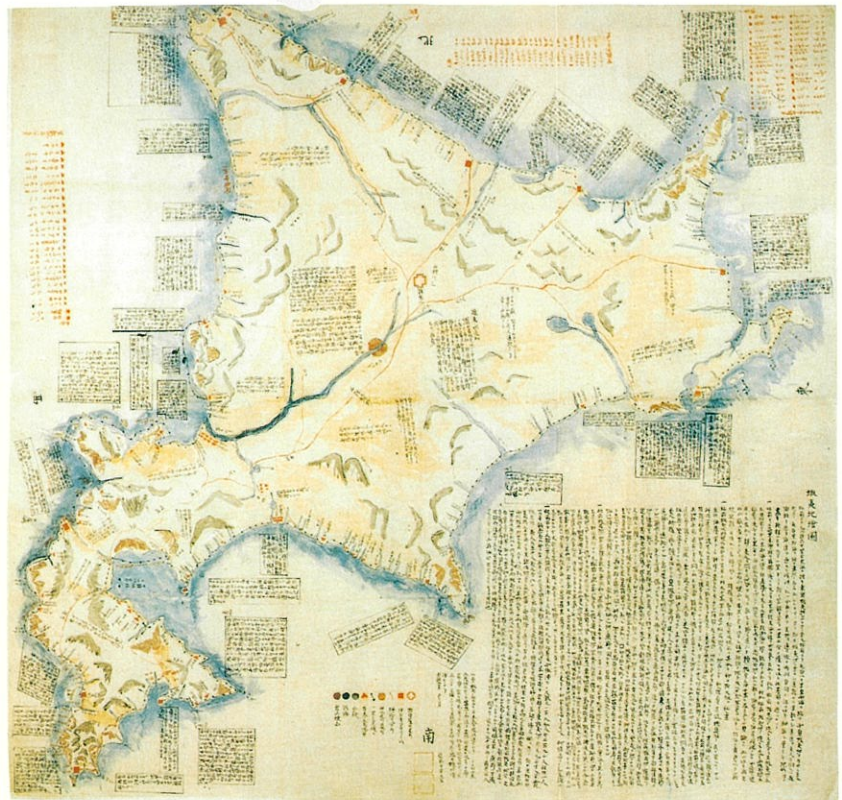
『百里余』と通称された石狩川の、より正確な流路延長を求めることは、とりもなおさず石狩上川地方の実測の必要性を訴えることになる。明治二年（一八六九）開拓使が置かれ、札幌本府の経営に着手すると、石狩上川の開発が緊要の課題となり、石狩川流域の調査と測量がすすめられた。開拓使職員高畑利宜のように、男の義侠心から上川を調査した者もいれば、松本十郎のように惜別の旅をここにえらんだ者もいた。しかし、その特色といえば、やはり外国人の指導による欧米の三角測量の技術を導入しての調査である。

まず、アメリカからケプロンに同行したワーフィールドが測量の任につき、つぎにワッソンが測量長となって「石狩川測量報文」を書き、さらにライマンが来て石狩川源流部まで踏査し「石狩及オトプチ川之図」を製した。ワッソンの後任となったデーは、北海道測量報告」をまとめて、三角測量事業をしめくくった。これによって北海道のほぼ三分の一の概測をおえたが、精測部は十五分の一にすぎず、石狩川流域についてみれば、河口から愛別辺までの概要は明らかになったが、源流部の精図を得るにいたらず、従って石狩川の長さの精度を高めることはできなかったのである。開拓使調査の総括といえる『北海道志』に「石狩川、源ヲ上川郡石狩嶽ニ発シ、諸水ヲ合セ石狩郡石狩ニ至リ海ニ入ル。広千三百三十二尺」と記して長さを書かず、『開拓使事業報告』は「石狩川、一二西ノ父川ト称ス。北海道五大河ノ一ニシテ、源ヲ石狩国石狩岳ニ発シ、西流二百有余里、石狩ニ至リ海ニ入ル」をして、古来の通称を紹介するにとどまった。

しかし、こうした中流下流部の精査と上流部の略側は、石狩川の流路延長を明らかにする前ふれであった。明治初年の心血をそそいだ調査は、やがて大きい果実となって人々の手にとどけられるのである。

百里より短い

開拓使廃止のあと、北海道は函館、根室、札幌の三県に分治され、石狩川は札幌県



蝦夷地絵図 近藤重蔵 77.0×80.8cm (東京大学史料編纂所蔵)

内に位置し、流域の開拓計画をたてるために測量の必要性がたかまった。県庁では勸業課の事業として測量、経界、地図調製を行うことになり、明治十五年（一八八二）課員福士成豊、平井辰次郎が、十七年近藤義徳等が石狩川の調査にあたったが、その長さを決定づけるに至らなかった。

そうした時、内務省地理局もまた全道図の作成をめざし、地理課員高橋不二雄を北海道に派遣した。札幌県の福士が加わり、多くのアイヌ人のたちの支援を受けて源流部の測量を十七年五月から半年間にわたって続けたが、その困難は想像を絶するものだった。わずか持参した米や味噌もなくなり、川魚を釣

り山菜を採って空腹をしのぎ、一張の天幕に入りきれない人は雨露にぬれて寝た。昼は蚊や虻におそわれ、夜は熊や狼の出没におののき、川舟の転覆、険峻な山坂で命の危機にさらされることもめずらしくなかった。

その甲斐あって、一行は同年九月二十四日朝、ついに石狩川の水源を究めることに成功し、今日の石狩岳を源流地と確認し、高度と緯度の測定を行った。高橋はこの感激を「水源ヲ篤ト視ルニ、一日ニシテ明カナリ。飯ニ北面ニ向テ見ルトキハ、西面ノ中腹ヨリ石狩川ニ派ヲ生シ、数多ノ溪流ヲ合セ忽チ一流トナリ、西流シテ吾方野營ノ先迄川脈螺旋ヲナシテ流ル」(高橋不二雄『札幌県巡回日誌草稿』)と述べている。

内務省の調査は翌年もつづくが、測定結果をもとに二十年五月『改正北海道全図』が刊行され、そこに石狩川の水源から河口までが位置づけられ、正確な流路延長を計測することが可能になったといえる。『北海道庁統計書』の第一回は明治十九年の事実を内容としているが、刊年は二十一年十一月だったから、石狩川の「水源ヨリ流末マテ里程 凡九五里」と載せ、十七年の測量結果を公表した。第二回統計書(二十二年十二月刊)は「凡」をばいいて「九六里〇〇町」と修正し、この数字が第五回統計書(二十五年十二月刊)までつづく。

ここに至って、石狩川の長さ「百里余」説は科学的立証にもとつき崩れたのである。百里よりも短かいことが明らかになり、諸説入りみだれていた水源の山を「石狩岳」と呼ぶことに一定したのであった。

九二里二八町に確定

さきに出た『改正北海道全図』は一枚の大縮尺図であったから、精密な計測には不適で誤差を見積もらねばならない。流路延長の精度を高めようとすれば、より縮尺の小さい地形図が不可欠になる。札幌県が廃止になって、明治十九年(一八八六)北海道庁が置かれると、すぐにその事業にとりかかった。

石狩川流域については、中下流部の精図が開拓使の手で作られ、上流部も札幌県でその概測がなされていたから、支流や相対的位置の測定を中心に明治十九年から二十四年にかけて行い、二十五年以後不定個所の補測につとめた。外業(現地におもむき、国郡村境界と地形測量、一部経緯度、水準測量)の結果を内業として地図に編製していき、まず一万分の一の原図を作り、次に五万分の一の縮少切図、二十万分の一の印刷下図を仕上げた。二十万分の一回は二十三年に道南部から刊行をはじめ、図名「札幌」は翌二十四年の出版である。その後順次二十万分の一回ができていき、三十一枚をもって全道をかば一することになる。

これらにもとづく石狩川流路延長の再計測が道庁によつてなされ、九二里二八町を得たのである。その公表は明治二十八年か二十九年とみられるが定かでない。『北海道庁統計書』第六回(二十六年十一月刊)第七回(二十七年十二月刊)には石狩川の長さについて記載がなく、第九回(内容は二十九年分、刊年は三十一年十一月)にいたって、次の記事をのせるのである。

石狩川 水源地名・石狩十勝国界石狩

岳

流末地名・石狩郡石狩ニテ海

ニ注ク

経過地名・石狩国上川雨竜空

知樺戸札幌石狩ノ各郡

水源ヨリ流末迄ノ里程・九二

里二八町

川口ノ幅・二三二間

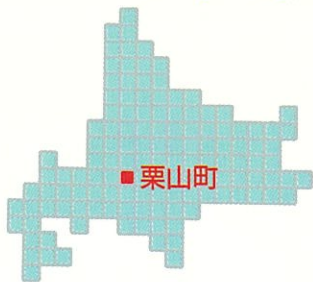
残念なことに第八回の道庁統計書が見あたらず、公表年をきめかねるが、第九回の刊行に先だつ二年前、すなわち二十九年十一月発行の『北海道庁統計綜覧』に、すでに第九回と同一内容が記載されているから、今のところ二十九年を九二里二八町確定の年としておきたい。永年の懸案であった石狩川流路延長はここに一応の結着をみたのである。

川は生きていく。だから流路がのびたりちぢんだりして、常に長さを変えているが、道庁では以後、太平洋戦後の新地図製作までこの数字を改正することはなかった。従つて後日、大規模な本流のシヨートカットが進んでも、九二里二八町を決定版とした。これをメートル法に換算すると三六四・四キロメートルほどになる。キロ以下を繰り上げて三六五キロメートルと通称するのは戦後のことで、『北海道年鑑』をみると、一九四九年版までが九二里二八町、一九五〇年版で初めて三六五キロメートルと表示している。

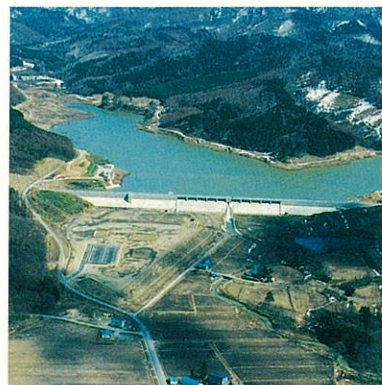
戦後の流路延長の変遷も大いに興味深い。測図や計測に苦勞された担当者に、思い出を語ってもらいたいものである。

栗山町

町の紹介



緑や水を中心とした 快適なまちづくり



▲栗山ダム全景

栗山町はいま、郷土を育ててきた石狩川水系の夕張川や、その支流である雨煙別川、阿野呂川が静かな清流を見せています。
「百年前、阿野呂原野は夢のような大自然の中にあった。」

夕張岳の奥地から流れる夕張川は雪解け水が濁流渦を巻き……大地は巨樹が茂り、笹や萱は丈高く千古さながらの原始の景観を展開していた。

開村当時の町発達記念誌によると、「毎年融雪の際には平野は一面に雪解け水に浸され、一時に山間より流出する水は平野に氾濫するという自然の状態なりき……」と記されており、栗山町の歴史は真に洪水との闘いの連続でありました。

幾多の辛酸を重ねた先人達は、いち早く水利事業に取組み、今日空知に誇る穀倉地帯として肥沃な大地に生まれ変わりました。

開基二〇〇余年を迎えた本町は、その歴



▲夕張川

史と豊かな自然を生かしながら新しいまちづくり事業の一環として、国蝶オムラサキなどの昆虫や動植物の生息する森づくりなど自然環境保全のための「蝶と緑の里事業」プロジェクトや、今年度完成し栗山町民の新たな財産となる栗山ダムの周辺を潤いのある水辺公園として整備に取り組んでいます。

ダムを治水、利水の面だけでなく各ゾーンごとに自然との調和を図りながら水と緑の豊かな新しい環境を創出し、やすらぎ・うるおいのある学習体験の場として事業を進めています。

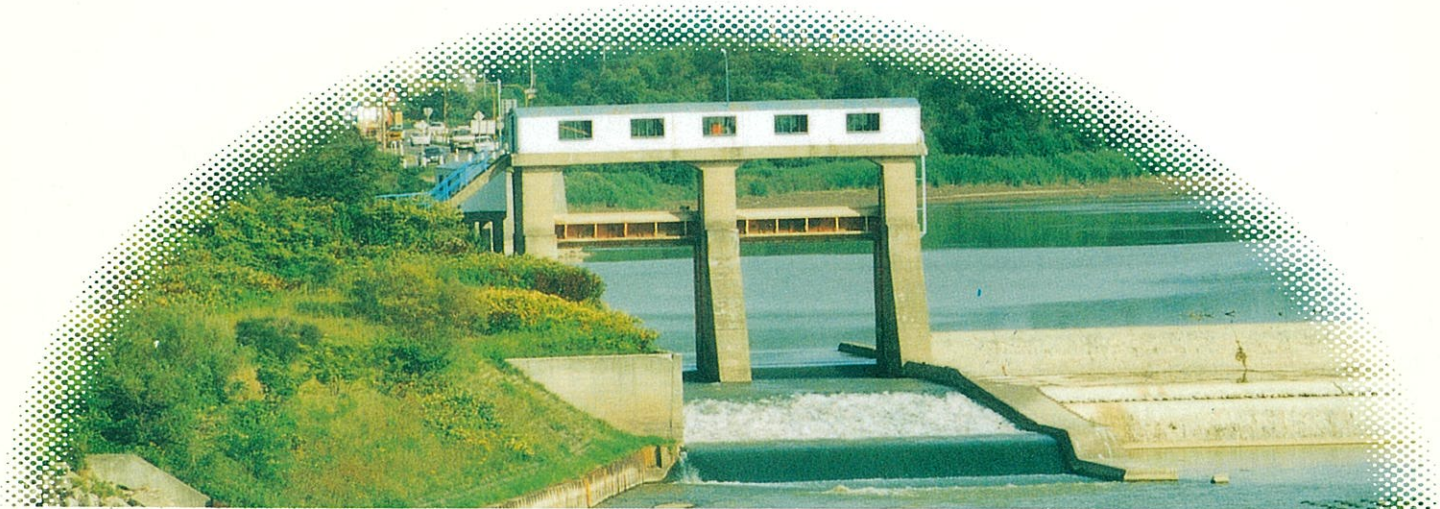
エントランスゾーンは森と芝生による広場を修景し、イベント広場やパークゴルフ場を設け、湖畔ゾーンは展望テラスや鐘のなる塔など、モニュメントを配し湖面全体三六〇度のパノラマを楽しむことができます。

さらに町民の手による植樹の森づくり、「ふるさと」の散策路を整備し、

湿性植物を植栽し、水と花の散策路を整備します。

また本町のシンボル雨煙別川も、いよいよ改修工事に着手されましたが、河川敷の有効利用を図り、自然と人間が共生しあえる水辺公園や憩いとレクリエーション施設、桜並木の遊歩道など、ふるさととの川としての整備を計画しています。

本町は川と切り離すことのできない地域にあり、今後も水の恵みを最大限に受けながら潤いのあるまちづくりを推進していきたいと考えています。



▲夕張川頭首工

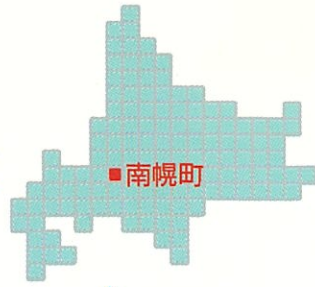
南幌町

流域市町

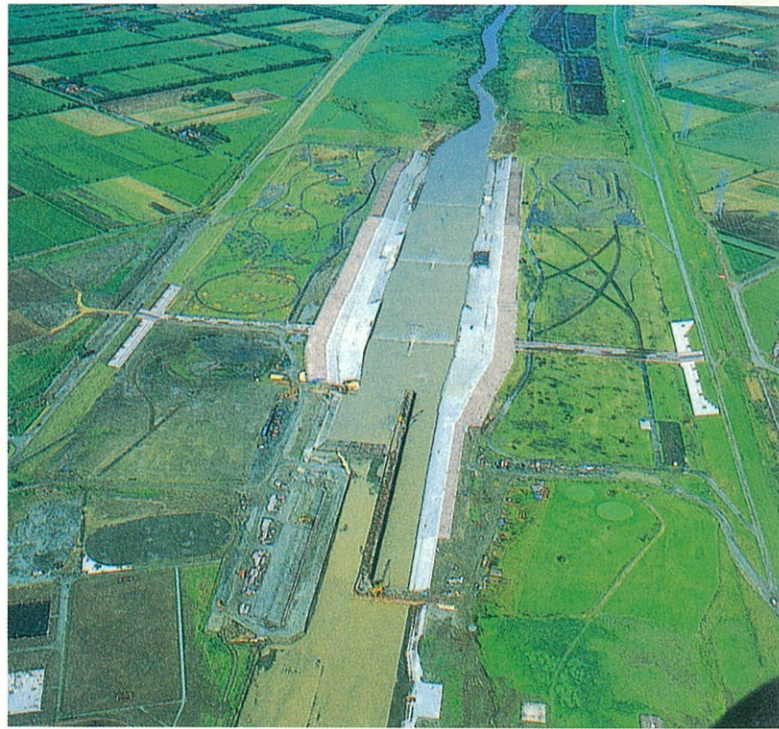


▲南向排水機場全景

浸水から治水 そして親水のまちに



南幌町は、平成四年に開基二〇〇年を迎え、二世紀へスタートしました。開拓の一〇〇年をふりかえると、その歴史は常に水害と対峙したものでした。本町が農耕適地とされたのは道内でも最も早く、明治19年（北海道庁設置時）の年ですが、周辺には夕張川・千歳川・石狩川の各河川が流れ、中でも夕張川は水流豊かで蛇行が甚だしく、常に満々と水をたたえ、大雨があるたびに、氾濫を繰り返していました。こうしたことから抜本的な水害対策として、大正11年に夕張川新水路の掘削が着手され、昭和11年に14年間の永きに亘った新夕張川代替工事が完了し、ここに今日の本町発展の基礎が築かれ、まさに先人の不屈の魂が郷土の礎となったものです。しかし今日でもなお、水害のない町づくりを目指して、河川改修や排水路整備、排水機場整備等に努力しているところです。

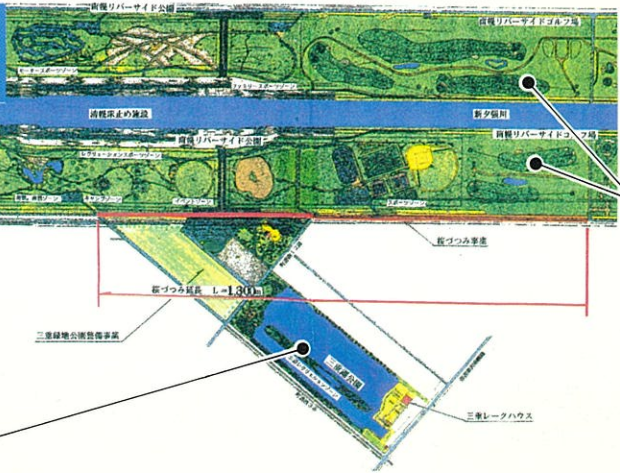


▲夕張川清幌床止

南幌町では、河川敷地を利用したスポーツ・レクリエーションの為にゴルフ場を含むリバーサイド公園・三重湖公園等の整備を進める一方、二世紀へのまちづくりとして、夕張川築堤の桜づつみ事業をはじめ千歳川に面した晩翠地区の国営幌向排水機場（南幌温泉の近く）の遊水地を利用して、親水公園の建設を進め、夕張川・千歳川を両極とする親水空間交流軸が整備されつつあり、水と緑の田園都市づくりを推進していくものです。「緑豊かな住み良い田園文化都市南幌町」は、緑の空間や住環境、農業生産環境や交通・ゴミ問題等に至るまで、根底にあるのは土地利用であり、豊かな水資源が約束されたからこそ、そこに水稲中心の農業が発展して

一方、近年における日本の河川、とりわけ都市河川や都市近郊河川は、自然環境問題や真の豊かさを求める国民的ニーズを背景として「ふるさと川モデル事業」等に見られるように、環境に配慮した河川整備が進められています。こうした時代背景を基に、本町では道都札幌市、新千歳空港、苫小牧港及び石狩湾新港が約1時間前後の圏域内に存在する地理的条件を生かし、先人の英知と努力で生まれた大いなる河川空間を、町民の豊かさのみでなく道央圏における資源として活用していくことが求められています。ここに「夕張川新水路が生んだ水と緑の恵みの田園文化都市」づくりを進めていく歴史的必然性があります。

南幌リバーサイド公園計画図



三重湖



南幌リバーサイドゴルフ場



夕張川治水記念碑悠久の像

きたものです。この様に、本町は歴史的にも「水の思想」で発展してきたもので、いつの時代も常に「川とどうつきあうか」を課題にしてきました。このことから、二世紀へのまちづくりのキーワードは、まさに「水環境」であり、この大きなテーマに、今取り組みを推進しているところです。



特集

石狩川文学散歩...

北の大地を潤す母なる石狩川。
 無垢な大自然は多くの人々を魅了する
 不思議なエネルギーが宿っています。
 ここから生まれた様々なドラマは
 どれも力強く自然を愛する心に満ちています。
 ページをめくるように
 石狩川を文学で散策してみましよう。

本庄陸男 著

『石狩川』



『西野辰吉 著 『東方の人』』

西野辰吉 著



「樺戸集治監のある月形村は、初代典獄月形潔の姓をとってひらかれた村で、明治14年に監獄が建設されたときは、未開拓の荒地だった。村を石狩川がながれていて、監獄は川のちかくに建てられているが、当時は下流の当別に仙台岩出山藩の旧藩士が移住してきているほか、石狩川流域はいくつかのアイヌ人の部落をのぞいては未開拓で、監獄建設にあたってここを踏査した官史は、川を丸木舟でさかのぼってたどりついたのでいわれていた」。

園木田独歩 著

『空知川の岸边』



近代作家としてはじめて北海道の原初のさまを捉えたこの作品は、小説というより紀行記に近く、作者の足跡を追うことができます。

「石狩の野は雲低く迷いて車窓より眺むれば野にも山にも恐ろしき自然の力あふれ、此処に愛なく情なく、見るとして荒涼、冷厳にして且つ壮大なる光景は恰も人間の無力と儂さを冷笑うが如く見えた」。

作者24歳の時に恋人との愛の巢を求めて来道したのは明治28年の秋でした。その恋は破綻に終わりましたがこの12日間の体験は北海道文学史に残る一編の作品を生み出しました。

作者は札幌で土地選定の相談をし、そして空知川に向かいます。いまはない空知川手前の旧空知太駅で乗合馬車に乗り、林を抜け平野に出て旅館三浦屋へ。その位置は現在の砂川市南空知太で、空知大橋のたもとにあります。ゆかりの地である滝川公園に記念碑が建てられました。

その後作者は空知太駅に引き返し、砂川駅から炊き内へ向い、目内でもち

◀ 文学碑 ▶



●石狩川の札幌大橋上流、JF学園都市線
鉄道橋と右岸堤防の交叉点の上流約100m。
当別市街より車で約15分。

文学碑「石狩川」は、新しくできた札幌大橋の近くに、作者没後25年忌（昭和39年7月23日）に建立されました。また、昭和53年11月には生誕地碑も建てられ、この大作と作者の功績を讃えています。

明治維新で没落した伊達藩岩出山支藩の主従一族が、石狩当別に集団移住する模様を史実に即して描いた、北海道歴史文学の頂点に立つ小説です。

「水に浮かぶと、川は限りもない広さであった。流れは一棹押しして離れるごとにもりもり遅ましくなった。棹は役に立たなくなつた。手ばやく權と取りかえた。中流に漕ぎだそうと悶えている丸木舟を、立ちさわぐ波はせせら笑っていた」。大自然と人間たちのまさに死闘と呼ぶにふさわしい開拓のドラマが、力強く鮮明に繰り広げられる大作「石狩川」。

▶ 北海道行刑資料館 ▶



●JR札幌線いしかりつきがた駅下車、徒歩3分。

民主主義文学作家・西野辰吉の代表作「東方の人」は、樺戸集治監に服役する囚人の、北海道開拓に苦役する姿を描いています。

作者は大正5年2月に天塩海岸の初山列村で開拓農家の三男として生まれ、7歳のとき空知支庁管内の音江村（現深川市）に移りました。「石狩川紀行―北海道文明史をさぐる―」やいくつかの北海道取材作などからも、故郷への思い入れの深さが伺いしれます。

樺戸集治監は刑期12年以上の重罪囚を服役させ、村の開拓に囚人を使用していました。その当時の模様を知るべく、北海道行刑資料館（当時は事務所として使用）には多数の資料が収集展示されています。

▶ 独歩苑 ▶



●中央バス滝川～芦別線。「黙志内入口」バス停下車、徒歩約2分。

空知川沿岸に達します。延長17.2・7kmの空知川は日高山脈を源として富良野盆地を通り、滝川で石狩川に合流しますが、作者が出会った地点は赤平市茂尻元町です。そこにも「国木田独歩曾遊地」と書かれた記念碑が建っています。以後再びこの地を踏むことはなかったのですが、空知川沿岸への思いは生涯熱いものでした。

『河川中期整備試案』 公表される。



《公表のねらい》

近年、河川整備に対する要望・期待は治水・利水の面のみならず、自然生態系の保全、スポーツ、レジャーや憩いの場の提供など多様化しています。それとともに、河川整備に対する社会の関心も高まっており、また、どのように河川整備が進められるのか、その効果はどのようなものかについてわかりやすく説明されることが望まれています。

このような社会情勢の中、住民の方々や関係機関に河川整備の現状と課題、整備の必要性と進め方などについて、広く知っていただくために、北海道開発局が管理する全一級水系について「河川中期整備試案」を公表するものです。

今後の河川整備は、今まで以上に住民の方々や関係機関のご意見、ご要望を取り入れることが重要であると考えていますが、今回の公表を一つの契機として、より幅広くご意見をいただき、今後の河川整備の進め方に反映させていきたいと考えています。

《河川中期整備試案の内容》

- 1 河川の概要
- 2 改修の経緯
- 3 河川の現状
- 4 今後の整備方針
- 5 2001年までの整備試案
- 6 今後の河川整備の課題
- 7 2001年までの整備試案プロジェクト表
- 8 プロジェクト位置図



《河川中期整備試案の位置付け》

1 今後の整備方針
河川整備は、各河川ごとに定めている長期的な目標である工事業基本計画に基づき実施しています。その整備目標は、50年から150年に一度起こる可能性のある規模の洪水を対象としています。「今後の整備方針」は、その前の段階的な目標として、21世紀初頭までの整備目標を設定したものです。

21世紀初頭を整備目標設定の時期として選定したのは、この時期までに人口の高齢化が進み、国全体の投資余力が減じていくと想定されているためです。

治水安全度の目標は、各河川の現状、流域の状況によって異なりますが、基本的にナショナル・ミニマムである概ね30〜40年に一度起こる可能性のある規模の洪水としています。

2 2001年までの整備試案

「2001年までの整備試案」は、21世紀初頭の目標を目指しながら、概ね10年後で、次期の治水事業5箇年計画の目標年次でもある2001年（平成13年度末）に達成できる河川整備の状況を具体的に示しています。ただし、今後も現在の河川整備に対する投資ペースが同様に推移すると仮定しています。

この整備試案のプロジェクトは、限られた予算の中で事業効果が最大限に発揮できるように考えて選定していますが、社会状況の変化、災害の発生、住民の方々や関係機関のご意見などを踏まえて、さらに検討を加えていくものです。

《今後の活用方針》

今回公表した各河川の河川中期整備試案を議論の「たたき台」として平成7年夏頃までの約1年間をかけて地域の住民の方々や自治体のご意見をいただくとともに、河川整備の将来像や進め方などについて議論を行い、試案を見直し、今後の河川整備に反映させていく予定です。

具体的なアクションプログラムとしては次のものを検討しています。

- 1 自治体との連絡調整会議の議題とします。
- 2 懇談会、シンポジウムなどでの討議材料として取り扱います。
- 3 パンフレットとして取りまとめ、窓口を設けて広く住民の方々のご意見を聞くこととします。

牛朱別川分水路事業 旭川市の豊かな 発展を願う

《暴れ川の歴史》

牛朱別川は、米飯山(標高九二〇m)に源を發し、石渡川、当麻川、米飯川等の支流を合わせて、石狩川に合流する流域面積四八一km²、延長三六・八kmの河川です。その流域は、旭川市、当麻町、東川町の一市二町にまたがり上流部は、本道有数の米産地として知られ、下流部は旭川市街を貫流する都市河川となっています。昭和初期の牛朱別川は、旭川市街において、流路が定まらず屈曲乱流し、氾濫を繰り返していました。このため旭川市は昭和五、六年に牛朱別川の市街地区間を開削し現在の新水路に切り替えました。この工事により生み出された敷地はその後、商業地域、住宅地域として開発され旭川市発展の一翼を担ったのです。

昭和二十四年からは、北海道庁により小河川改修として、掘削、築堤、護岸工事が行われてきましたが、昭和四十五年八月に発生した集中豪雨による洪水では上流部で大氾濫をもたらしたにもかかわらず、下流の市街地区間では、非常に危険な状態に陥りました。

これを契機として、牛朱別川の抜本的な治水対策を望む声が大きくなりました。

整備の諸元等

1)事業概要

- 事業名/牛朱別川分水路事業
- 事業年次/昭和59年～平成13年(完成予定)
- 施工延長/5.5km
- 川幅/200m
- 計画流量/1000m³/S



▲橋梁工事(第一北永橋)



▲築堤工事(左岸上流)



▲工事中の牛朱別川分水路全景

《牛朱別川分水路計画》

昭和初期に開削された牛朱別川下流部の新水路区間は、上流部に比べて極端に川幅が狭く、掘削工事等を実施しても洪水を流下させるのに必要な河道断面の約半分しか確保できません。現在河川の両側には、学校、病院、住宅等の家屋が密集し、堤防を広げるには大規模な移転が必要となり非常に困難です。また上流に降った雨をダムや遊水池に一時的に貯留する方法も、流域の形状や経費の面でも問題が大きことから、抜本的な治水対策として、牛朱別川上流の桜岡地点より石狩川本川までの延長約六km、川幅二〇〇mの分水路により分流する牛朱別川分水路工事を実施することとしました。

《安心とやすらぎを》

昭和五十九年、用地買収に着手してから現在掘削に伴う地下水位の低下により影響のある井戸の補償、分断する道路等の橋梁工事を中心に事業を進めています。翌年度以降は分水路の本体部分である分水門や床止工事に着手するほか河道掘削を促進し平成十二年の完成を目指しています。

牛朱別川分水路が完成すると、旭川市街部へ流出する洪水は半減させることができ、旭川市の安全な発展基盤が約束されます。

また、牛朱別川分水路によってできる約一〇〇ヘクタールの広大な河川空間は、緑豊かな市民の憩いの場として期待されています。

《噴火に備える火山砂防事業》

30年～40年サイクルで噴火をくり返す十勝岳に対し、大正15年の泥流を想定した、火山泥流対策砂防事業が展開されています。

計画の基本的な考え方は、美瑛川、富良野川へそれぞれ流下する泥流を、61000×10000m²及び133000×10000m²とし、各河川において、泥流ピーク流量を下流河川の計画流量まで低減するよう導流堤、床固工、砂防ダム、流路工等の砂防施設を尻無沢川に設置して、泥流をコントロールします。

十勝岳周辺は、雄大な自然を誇る日本最大の面積を有する大雪山国立公園の一部であるため、周辺との調和をはかることを基本に砂防施設が計画されました。特に白金温泉街に隣接する尻無沢川流路工は景観や公園としての多目的利用等に考慮した砂防施設です。

十勝岳直轄火山砂防事業 自然と共に 暮らせる町へ

整備の諸元

1)河川の概要

- 河川名/石狩川水系尻無沢川
- 流域面積/1.0km²
- 延長/2.0km

2)火山砂防事業

- 事業名/直轄火山砂防事業
- 整備年次/平成元年度～平成7年度(完成予定)
- 主な整備/床固工～4基、砂防ダム～3基、流路工～490m



▲尻無沢川流路工完成写真

洪水から人々の生活を守り 新たな環境の創造を求めて

千歳川放水路

《千歳川流域について》

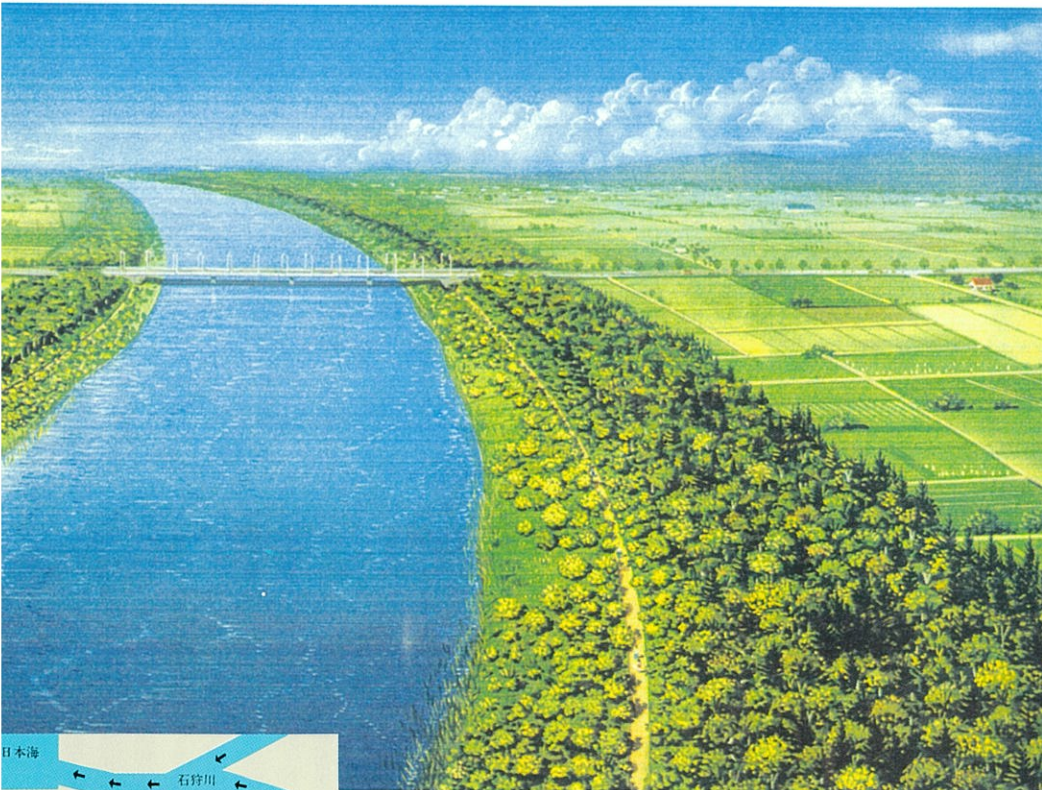
千歳川放水路計画は、千歳川流域に広がる約4万ヘクタールの広大な低平地の抜本的な治水対策として実施するものです。この流域では、2年に1回という頻度で洪水を受け、特に昭和56年8月に起きた洪水では甚大な被害をもたらしました。

千歳川流域に水害が起きやすい要因として、次のようなものが挙げられます。

- 1、雨量が多い。
- 2、低平地が広がっている。
- 3、洪水時に石狩川の影響を強く受けて高い水位が長期間続く。
- 4、堤防の基盤が火山灰層のため漏水等による堤防決壊の危険性が高い。

これらの要因から、千歳川流域の洪水を低い水位で流す放水路がどうしても必要なのです。

◀◀ 昭和56年8月洪水



《千歳川放水路の概要》

千歳川流域は先に述べましたように水害が起きやすく、今までの対策では十分ではありません。石狩川本川の改修工事による水位低下には限界がありますし、千歳川流域の水害をなくすためには、その水位の影響を断つことが必要です。

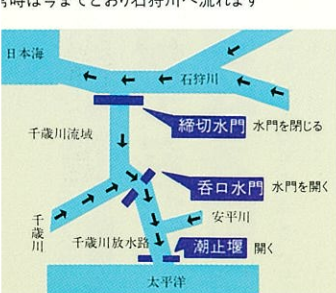
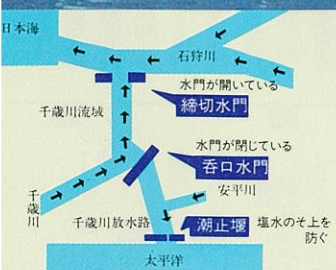
千歳川と太平洋を結ぶ千歳川放水路は、千歳川の洪水を水位の低い太平洋に流すことにより、千歳川の水位を下げ、流域の家屋や農地を水害から守ることができます。

千歳川放水路は、千歳川の中流付近、長沼町馬追原野から発し、太平洋岸の苫小牧市弁天に至るもので、延長は約40km、長沼町、千歳市、苫小牧市、早来町の2市2町を通過します。そのうち、約3分の1は現在ある大学排水などの水路に沿って掘削し、約3分の1は現在の安平川等の河道を拡幅し、残る約3分の1はこれらを結ぶように開削する事としています。

平常時には、千歳川から放水路への分派点に設ける呑口水門を閉じておき、石狩川への合流点に設ける縮切水門を開いておきます。これにより、千歳川の水はこれまで通り石狩川へと流れます。

洪水時には、呑口水門を開いて千歳川の水を放水路に導き太平洋に安全に流すとともに、縮切水門を閉じて石狩川の水が千歳川に入らないようにします。

●千歳川放水路のしくみ



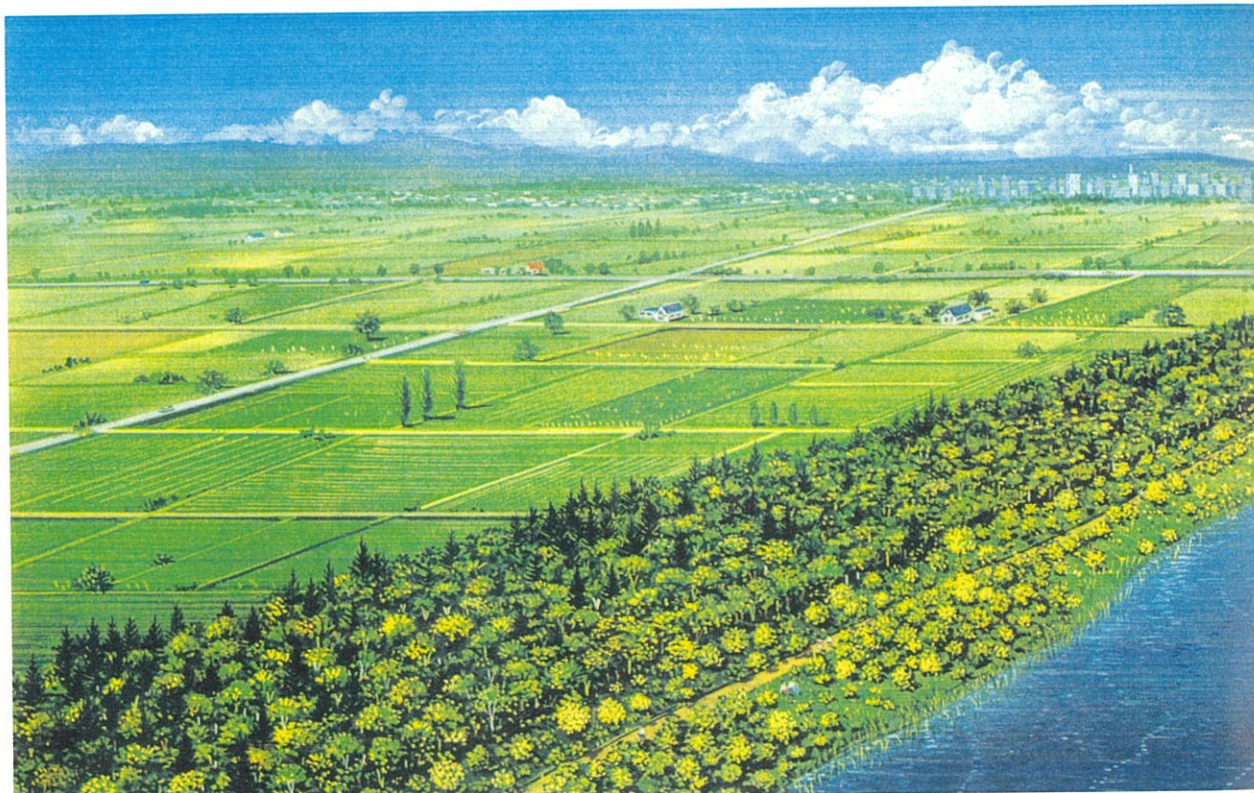
《環境との調和は主要課題》

環境保全に関し、国民、道民は高い関心を持っています。北海道知事からの局長に対する5項目の要望(平成4年6月)においても、美々川の環境保全、農業・漁業への影響に対する配慮等について述べられています。また、釧路でのラムサール条約締結国会議(平成5年6月)の際にも、改めて環境問題が大きく取り上げられ、注目を集めました。自然保護団体との対応については、これまでも説明の場を数多く持ち、公開討論会にも参加するなど積極的に行ってきました。更にこうした努力の積み重ねが必要であり、結局はよりよい事業の実施につながるものと考えています。

また、ウトナイ湖や美々川の自然環境保全についての取り組みはもちろんだこと、約400ヘクタールの樹林帯を伴う約800ヘクタールの新たな水面が出現することで、貴重なヒオトープができることを確信しています。漁業への影響とその対策など、これから具体的に進めていかなければならぬ項目がたくさんありますが、関係者の理解を得ながら進めていくことにしていきます。



▲千歳川の地形特性と洪水氾濫発生の関係



▲千歳川放水路イメージパース

また、千歳川放水路は、延長40キロメートルという長い距離に及ぶ事業であり、掘削土の活用等に係わる関連事業も多いことから、河川事業だけでなく、農業、道路事業等との連携を強く進めていくことが不可欠となっています。

《新たな段階へ向けて》

今年6月に、インディアン水車の対岸に千歳川放水路建設事務所が新設され、庶務、用地、計画、調査の4課で新たなスタートを、関係機関、団体等との調整事務など慌ただしい中で過しております。現在、千歳川放水路に関して取り組んでいる内容が、今後の公共事業を進める上でのモデルケースになると信じて、一歩一歩進んでいるところです。

平成6年7月18日、開発局は千歳川放水路についての知事からの要請に対して回答を終えました。今後、選定したルートを基に道との連携をいっそう強め、地域の理解を得て事業を進める新たな段階に入ったと言えるでしょう。

千歳川放水路は、延長約40km、幅約400mの緑豊かなオープンスペースとなります。また、周辺は掘削土の活用による農地再編や土地利用の高度化が可能となり、周辺地域の将来の発展に大きく貢献していくことができます。このため、郷土の宝となる日を早く迎えることができるよう、着実に努力を重ねることが大切であると考えています。



▲千歳川放水路沿いの樹林帯と水辺環境のイメージ

手稲山と石狩湾を結ぶ自然の回廊 新川・星置川にやすらぎを求めて

《新川・星置川水系河川》 《環境管理基本計画》

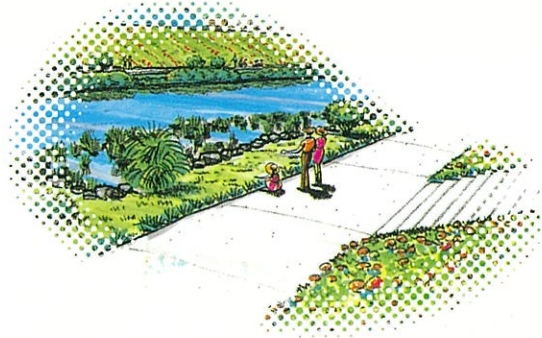
北海道の二級水系として初めての、河川環境管理基本計画が策定されたので、今回ここに紹介します。

新川は手稲山系の峰々に源を発し、札幌市の西部地区を琴似川、琴似発寒川、中の川、三樽別川、軽川等の支川を集め、石狩湾に注ぐ河川です。これら新川に注ぐ河川はその昔は石狩川に流入していました。石狩川の逆水とこれらの河川の出水のため、頻繁に洪水浸水を繰り返しました。この浸水対策と低湿地の排水を目的として明治6年頃から明治19年にかけて囚人を使役して新水路を開削したのが現在の新川の始まりで、北海道開拓の記念碑的な河川と言えます。その後逐次改修が進められ現在に至っています。

星置川は札幌市と小樽市との境界の河川で、手稲山を清川という名称で東に流れ河口付近で新川に合流していたが、銭函市街地の発展に伴い流路が幾度か変わり、昭和51年から59年にかけての改修で石狩湾に注ぐ現在の河川流路となっています。

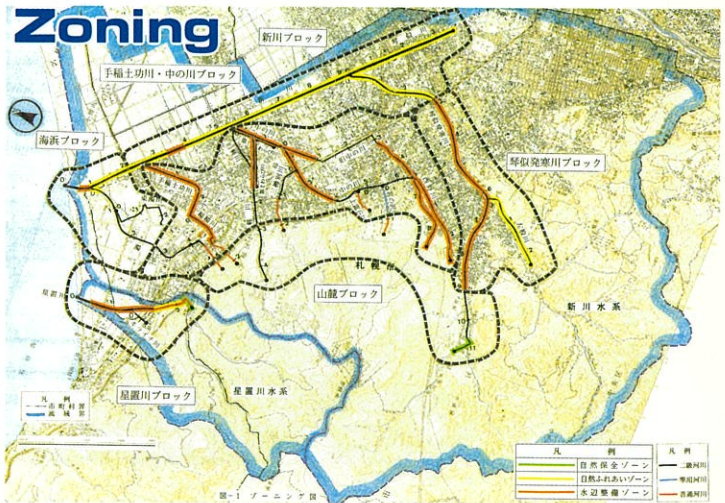
両河川とも下流部は人工的河川ですが、沿川の市街化が進むなかで、現在では都市域における貴重な自然空間となっています。

河川環境の保全と創出にかかわる施策を総合的かつ計画的に実施するための基本的事



ブロック名	基本方針
海浜ブロック	「広大な自然とのふれあい空間」をテーマに、河口・海浜特有の自然環境の保全を図るとともに、広大な自然にふれあえる水辺空間として管理する。
新川ブロック	「まちに野鳥がさえずる緑豊かな憩いの水辺」をテーマに、市街地の河川に育まれた野鳥の生息の場を守り、身近な自然に憩える水辺空間として、また良好な都市景観を創出する水辺空間として管理する。
琴似発寒川ブロック	「憩いとやすらぎの水辺空間」をテーマに、都市の中で人々が水辺に触れ憩いやすらげる親水空間として管理する。
手稲土功川・中の川ブロック	「地域の暮らしに潤いを与える水辺の空間」をテーマに、良好なまち並みを構成する景観軸として、また、気軽に憩える身近な水辺空間として管理する。
山麓ブロック	「自然と出会う水辺の空間」をテーマに、残された数少ない自然を保全し、人々が自然と出会うことができる水辺空間として管理する。
星置川ブロック	「地域の憩いの水辺空間」をテーマに、住宅団地等の開発に伴い快適なまちづくりの一翼を担うべく、現存する自然生態系や自然景観を守り、人々が身近な自然に憩える水辺空間として管理する。

項を定めたのが、この河川環境管理基本計画です。



Net work



両河川の自然豊かな流れを、海や山に生息する動物たちの生活空間をつなぐ貴重な回廊として、また、都市化が進む中に残る良好な水と緑の景観軸として位置付けました。さらに、高齢化社会を迎えたいま、身体の不自由な方も含め、幅広い年齢層の人々が等しく安全に身近な自然や水辺とふれあえるよう整備するとともに、子供達の自然学習の場やイベントなどを通じて地域文化の形成に寄与する空間として位置付けました。

さらに両河川の流域を大きく六つのブロックに分け、それぞれのブロックの方針を示すとともに、保全と利用が調和するようゾーンタイプも示しました。また、重点的に整備または保全することが望ましい7地区を拠点地区として設定しました。

今後はこの基本計画に基づいて両河川を整備管理することになりますので、関係各位の理解と協力をお願いする次第です。

準用河川改修事業 東屯田川遊水地の多目的利用 「東屯田川遊水地」 ：自然を育む出会いの水辺：

《東屯田川の遊水地整備》

東屯田川は、札幌の都心から約10km北に位置する北区屯田地区を流下する小河川であります。この地域は、伏籠川をはじめ、発寒川、創成川の主要三川が合流している札幌市の治水上の要所となっており、過去から水害の常襲地帯であったことから、昭和54年度より伏籠川総合治水計画のもと、治水事業を推進しております。

東屯田川の改修事業では、合流河川の発寒川が堤防で改修されたことから、河道拡幅に合わせ、予想される内水氾濫対策として、豪雨時には47千㎡の洪水を貯留する遊水地を整備することにしました。



遊水地は、総面積が6haと広い公共空間となることから、地域で不足しているスポーツ広場として、平常時も有効に利用できるような地元住民から強い要望を受けたことに伴い、遊水地の多目的利用計画を策定し、治水施設は準用河川改修事業で、多目的利用施設は、地方特定河川等環境整備事業により整備を行っているものとあります。



▲多目的利用施設整備が進む遊水地(東側)

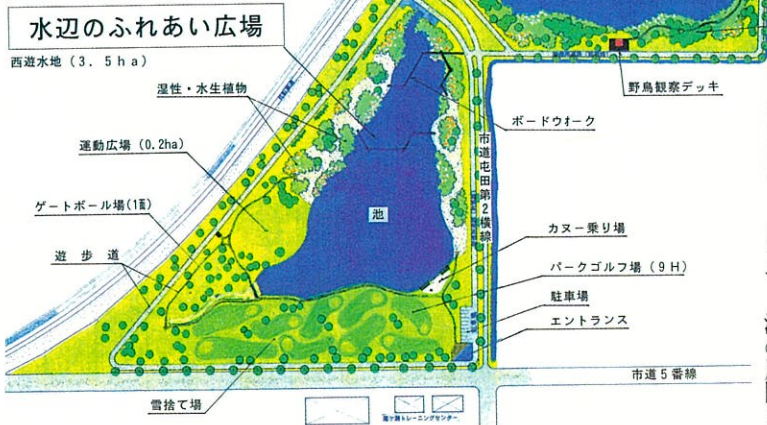
▼水際には、早くもチヨウサギや鴨が飛来してきている(東遊水地)



《遊水地の多目的利用》

整備諸元等

- 遊水地の概要
- 名称 / 東屯田川遊水地
 - 事業名 / 準用河川改修事業
 - 面積 / 6.0ha
 - 計画貯留量 / 47,300㎡
 - 計画貯留深 / 1.1m
- 多目的利用施設
- 事業名 / 地方特定河川等環境整備事業
 - 整備年次 / 平成5年度～平成7年度



- 整備内容 /
- (東遊水地) ・池の創出・中島の設置・緑化(水生・湿性植物、低中高木)
 - ・池の深み・野鳥観察デッキ・遊水道
 - (西遊水地) ・池の創出・遊歩道、木柵橋・パークゴルフ場(9ホール)
 - ・ゲートボール場(1面)・運動広場(0.2ha)・カヌー乗り場(水面1.0ha)
 - ・緑化(水生・湿性植物、低中高木)・駐車場・エントランス

貯留量を確保しながら、現状の高い地下水位を活かし、水郷公園的な整備を基本に考え、「東屯田川遊水地・自然を育む出会いの水辺」をテーマに、自然豊かな憩いの水辺空間として整備する方針としました。

整備内容につきましては、道路で二分された遊水地の東側は面積が小さいので、運動施設は配置せずに、自然を主体とした生物の成育環境を整える自然豊かな空間としました。このゾーンは、「野鳥の里」と位置付け、周囲で確認されたサギ類や鴨等の水鳥が棲めるように、池には逃げ場として中島を設けた。餌となる魚類に対しては、深みや水生植物を植えたり、また、人からの遮断や隠れ家として、池の周囲には低高木を豊富に植栽することとしております。

一方、面積の広い西側は、市民が積極的に利用できる運動施設の整備を主体とする空間とし、「水辺のふれあい広場」と位置付け、最近人気が高まってきたパークゴルフ場をはじめ、ミニサッカーやソフトボールなどのできる芝生広場やゲートボール場、カヌー乗り場等の施設を整備します。

また、冬期間は雪対策施設として雪捨て場の利用も考えております。

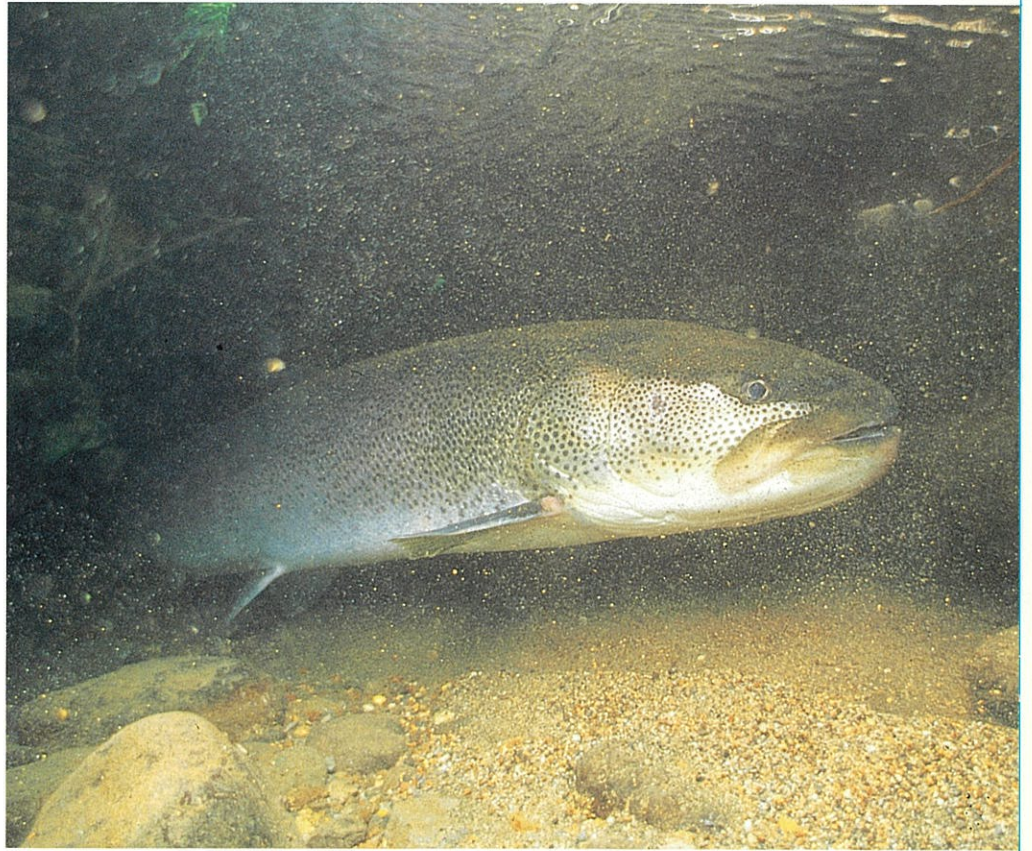
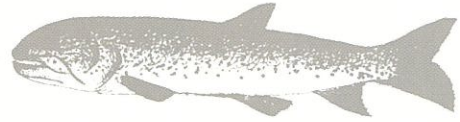
遊水地の多目的な利用に当たっては、総面を工夫することにより、東屯田川の遊水地は、新たに池を創出する等河床を通過して有効利用できることとなった本格的な多目的河川施設であります。

石狩川の仲間たち。

川と人通信② — 「大魚編」

イトウ◆鮭【サケ目／サケ科】

全長は1~1.5mに達し、日本に生息する淡水産サケ・マス類の中では最大。北海道の尻別川を南限とする北海道・南千島・サハリン沿海地方にのみ分布。主にゆるやかな流れの川の中・下流やそれに続く湖沼の暗い深みにすむ。30cm以下の幼魚は水中昆虫を、それ以上の成魚になると魚類を捕食する。



北海道におけるイトウの主な生息分布



神か？怪物か？
幻のイトウ伝説よ、ふたたび。

「幻の大魚」とも呼ばれ、釣り人のロマンをかきたててやまない伝説的な魚、イトウ。

イトウは淡水産サケ・マス類の一種で、全長1~1.5mの巨体や大物と呼ぶにふさわしいふてぶてしい表情からか、漢字で「鮭」と書きます。魚の中の鬼。その名が示すとおり、ヘビやネズミ、さらにはシカまでも丸のみしたという武勇伝が昔から伝えられています。真実はともかく、それほど驚かすような風格を備えたイトウは人をひきつける魅力に溢れた淡水魚の王者といえるでしょう。

さて一口にイトウといっても、アイヌ語でチライ、オピラメと呼ばれていたように、2つに分けられます。チライは身が白く小さいもの。オピラメは身が赤く全長1m以上の

大きなものをいいます。味はオピラメの方が脂がのり、美味といわれます。同じイトウでも違いがあるのは、それぞれが食べるエサの違いと考えられています。

また、繁殖期には体が鮮やかな赤みのあるオレンジ色を帯び、主にオスの方がよく現れ、体の大きな個体ほど、その赤みが増すとされています。

「幻」といわれるほど数が減少しましたが、自然豊かな北海道のいくつかの場所には、今でも生息しています。主に北から猿払川湖沼群、朱鞠内湖、石狩川水系の金山湖、釧路湿原、そして尻別川。これらの場所でも目撃例はきわめて少ないのです。まるで私達の憧れや期待を充分知りつつわざと隠れて、気づかぬうちにひよっこりと表われる…。まだまだ人間に全てを見せるわけにはいかないとでもいったげな大魚は神なのか、怪物なのか…。

きっと石狩川のどこかで生き続けるのでしよう。

さかになにやさしい川づくり 「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業」 モデル河川として石狩川が指定される

6月30日、建設省河川局は地域のシンボリック河川などを対象に、試行的に魚類のそ上環境を改善する「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業」のモデル河川として新たに石狩川など全国12河川を指定しました。これにより指定河川は19河川になります。

魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業は次のように進められます。

モデル河川の申請 (地方建設局長、都道府県知事等)	所管する河川の中から、モデル河川として適当な河川を河川局長に申請します。
モデル河川の指定 (河川局長)	申請された河川の中から、つぎのような河川が河川局長からモデル河川に指定されます。 ●地域のシンボルとなっている河川 ●漁業の他、魚を中心とした親水活動、観光が活発な河川 ●魚の遡上環境改善に関する地域の熱意が高い河川 ●モデル事業の実施により、大幅な魚の遡上改善が期待できる河川 ●河口から水源地まで一貫したものである河川
実施計画の策定及び認定申請 (地方建設局長、都道府県知事等)	指定を受けた河川の管理者は、学識経験者の指導、助言を得ながら「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業実施計画」を策定し、河川局長に申請します。
実施計画の認定 (河川局長)	申請された実施計画の中から、モデル事業の実施にふさわしい内容と認められるものについて、実施計画の認定を行います。
モデル事業の実施 (地方建設局、都道府県等)	認定された実施計画にもとづき、治水事業によりつぎのような対策が実施されます。 ●堰や床固めの河川横断施設とその周辺の改良 ●魚道の新設や改善 ●魚道流量の確保



トピックス

建設省は治水事業の実施にあたり、多自然型川づくりなど自然と調和した川づくりを進めています。豊かな水域環境の創出をより積極的に推進するため、平成3年度からこの事業を実施しています。モデル事業では地域のシンボルとなっている河川などについて、堰や床固め、ダム、砂防ダムなどその周辺の改良、魚道の設置、改善、魚道流量の確保などを計画的、試行的に行い、全国の河川などのモデルとして魚類の遡上環境を積極的に改善します。

平成4年3月31日には第1次指定河川として多摩川、揖斐川・長良川、太田川の3河川、翌5年1月26日には第2次指定河川として吉野川、球磨川、七北田川、奄美五河川の4河川をモデル河川に指定しました。

今年度指定された河川のうち石狩川は北海道最大の河川で、サケをはじめとする魚類相も豊富で、水産観光資源として重要です。「カムバックサーモン運動」に代表されるように、地域住民が中心となった活動が積極的に行われ、魚類の遡上環境改善に関する熱意も高く期待されています。

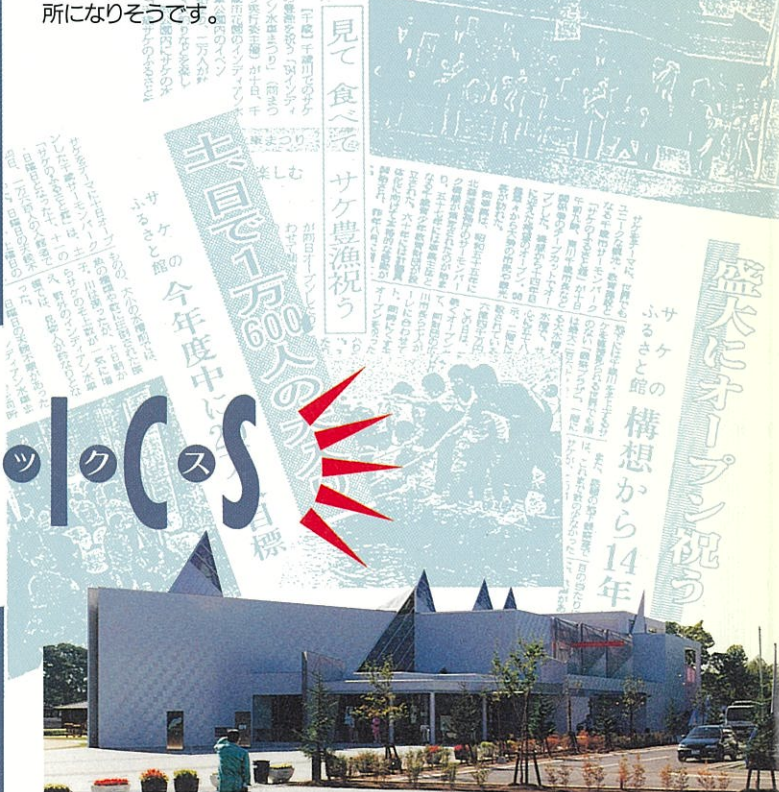


サケのふるさと館 千歳サーモンパーク、オープン!

人と川とサケのふれあいをテーマにした千歳市サーモンパーク「サケのふるさと館」が、9月10日、関係者などによるテープカットでオープンしました。

構想から14年目のオープンとあって、開館前から300人以上もの人々が並び、大勢の市民や観光客が訪れました。

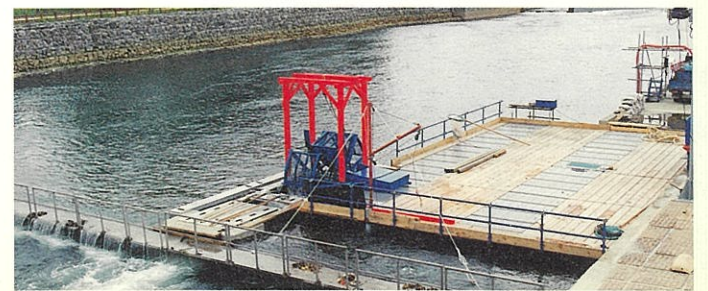
地下1階地上3階建ての施設は、水族館を中心に川やサケに関する情報を発信する世界でも珍しいものです。特に地下観察室は、川の断面から川底やサケの遡上を直接見ることができるとあって、その迫力に歓声があがるほどの人気。また一階には最大260トンの水量の大水槽を含め、大小20余りの水槽にはサケ、マスなどの淡水魚を中心に58種、約1万匹を展示。他にも映像コーナー、資料展示コーナーなど楽しみながら川とサケにふれあい、そして学ぶ場として、千歳市の新たな名所になりそうです。



千歳 サケのふるさと館
Chitose Salmon Museum

〒066 千歳市花園2丁目
インディアン水車公園内
TEL (0123) 42-3001

- JR千歳駅から…約1km
- 新千歳空港から…約5km
- 道央自動車道千歳J.C.から…約5km



8月7日は 石狩川の日

「石狩川の日」は平成5年11月5日の砂川市で開催された第2回石狩川サミットの「第2回石狩川サミット宣言」で制定されたものです。同会議は石狩川流域48市町村が一堂に集い、「自然と人間の共生・川からのまちづくり」の基本理念に基づき、「緑とあそび」をテーマとして、各市町村の緑に対する取り組み、課題などについて討議を行ったものです。

この会議において「私たちは緑を守り育て、良好な水辺環境の保全に最大の努力をする。また8月7日を「石狩川の日」と定める」などを内容とした「第2回石狩川サミット宣言」が発せられました。「石狩川の日」は石狩川の大きな恩恵に感謝し、流域住民の連帯の絆を深め、さらにより良い水辺環境を創出することを目的としています。



▲キャンペーンポスター

石狩川振興財団の 活動報告

なぜ8月7日なのか？

8月7日を「石狩川の日」とした理由は、まずこの日が北海道の七夕であることと七夕伝説・伝統行事は水に関わるものが多く、アイヌは天の川を「ベツ・ノカ」と呼び、つまり「川の姿」と呼び、南北に輝く銀河・天の川は、その地方の川が天に映ったものとして眺められてきました。そして短く限られた夏に水に親しむ期間もこの時期に集中していることから、河川愛護月間（7月1日～31日）、水の日（8月1日）、水の週間（8月1日～7日）などを考慮し定められたものです。



▶石狩町電飾看板



▲石狩川下り 市民カーニバル

親子で川について楽しみながら学習する恒例の「親水体験親子バスツアー」が今年も2回に分けて実施されました。第1回目の石狩川上流コースは8月7日(日)岩見沢市内の小学校5～6年生とその父母総勢65名で、澄み渡る青空の下、岩見沢市民会館を出発しました。

はやる気持ちをおさえてバスに乗り込んだ一行は、まず片道約1時間半の旭川市石狩川治水学習館を見学しました。館内はファンタジーゾーン、3Dゾーン、そして川の歴史・洪水・治水を観覧車に乗って体験できるアドベンチャーゾーン、川の学習ゾーンの4つのパノラマゾーンが展開され、その中でも水と光が幻想的に変化する3Dゾーンが子供達に人気でした。

続いて石狩川治水学習館から徒歩5分のところで昼食をとりながら石狩川下り市民カーニバルを応援。遠くの方から子供達に人気のマンガクレヨンしんちゃんのかだがゆつくりと流れてくると、子供達は一斉に手を振りながら「がんばれー」と大声援、大変盛り上がりました。

川下りで大興奮のあとは洪水時象気体験コーナーへ。豪雨体験コーナー、流速体験コ

コーナー、強風体験コーナー、部分強風体験コーナーなど、自然災害の恐ろしさを目の当たりにして、改めて治水の大切さを学ぶと同時に、好奇心でいっぱいの子供達にはスリルいっぱい遊園地にいるようなはしゃぎようでした。暑かった今回のバスツアーもカワセミ営業護岸の見学を経て帰途につきました。また、第2回目の8月21日の石狩川中流コースは、旭川市内の小学5～6年生とその父母82名により、8月7日のツアーと交流交換するかたちで行われました。

恒例、 親水体験 親子バスツアー

親水体験親子バスツアーに参加していた方々からの感想写真は、審査の結果、次のように大賞・優秀賞が決定いたしました。

作文の部



旭川市立南小5年 小林真実



旭川市立日章小6年 松田衣

- 大賞
岩見沢市立東小6年 浮中 怜奈
旭川市立日章小5年 山本てい子
- 優秀賞
岩見沢市立中央小5年 辻 稔生
旭川市立日章小5年 沼崎 泰成

写真の部

- 大賞
岩見沢市 大井 孝子
大町小 鎌田いく子
- 優秀賞
岩見沢市 渡辺 弘美
日章小 山本 實
- 岩見沢市 高野 憲子
大町小 石井 仁

「石狩川クリーンアップ作戦」実施

本年度初の「石狩川の日」を迎え、その記念事業として「石狩川クリーンアップ作戦」を展開しました。これは石狩川サミット実行委員会が呼び掛け、実施主体は地域の河川愛護団体、ボランティア団体、および町内会などが中心となり、身近な河川の堤防、河川敷、水辺などに投棄された空き缶、ゴミなどを拾い清掃するもので、7月中旬から8月7



▲山仁町

日までの期間内で実施しました。参加者総数は、28市町村で223団体、約10、900人です。
なお「石狩川の日」の啓蒙活動として、ポスターなどによるPRの他、当財団職員をメンバーとするキャラバン隊を編成し、7月18日から5日間の行程で流域48市町村を巡回し本活動の意義について訴えました。



忠別ダムフェスタ'94 宗次郎コンサート開催



▲忠別ダム



平成6年7月9日
(土)、忠別ダムフェスタ'94、宗次郎コンサートが屋外のダムサイド特設広場で開催されました。このコンサートは平成6年3月の本体発注を機に地元期成会と当財団が主催し、地域の人々がダムに集い、実際にダムを見て、体感し、ダムへの理解を深めてもらうことを目的として実施したものです。
当日は時折小雨がぱらつくあいにくの天候にもかかわらず地元の東川町、東神楽町、美瑛町、旭川市、そして札幌市などから約



コンサート風景▼

名曲『コンドルは飛んでいく』をオープニングに20数曲が演奏されましたが、宗次郎の奏でる美しいオカリナの音色は、夕暮れのダムサイドにゆるやかに響きわたり、参加した多くの人々を魅了しました。
イベントは忠別ダムの役割を理解していただくための「忠別クイズ」、その後はおまじかね、宗次郎コンサート」が約2時間におたり繰り広げられ、壮大な自然に囲まれながら初夏の楽しい一時を過ごしました。

1、000人が集まりました。



キャンペーンチラシ ▲

編集後記

- 川の長さは変化するもの、源流も河口も変遷消長の繰返して、流量も季節により、時代によっても変るもの。「源流はどっちだ！」の主張・異説も石狩岳、小石狩岳をめぐって過去にあったが、小にこだわらずおおらかなのが妥当ということもありましょう。
- 流域もむずかしい言葉、NHKのクイズ番組でも正解率は低かった。トンネルが通り山越えなどがなくなっているいま、日常の生活で流域を意識することは薄らいでいる。地下水は地表に関係なく流れている。治水でも「流域内完結の原則」などと仰っしゃる方が居ますが心情的で昔の国家間「内政不干渉の原則」めいて、現在の国際協調の方向にも沿わないのではないのでしょうか。
- 冬が過ぎ雪どけの春になると桜より一足早く、発泡スチロール・ビニールなどのゴミの花で河畔の柳が満開となる。……「石狩川の日」のクリーンアップキャンペーンで48市町村を訪問しましたが、多くの方が長年にわたってボランティアで清掃活動を行っていることを知り、また上流の方々も大変な努力を重ねられていることも知りました。
上からのきれいな水の便りに魚たちが返事をもって廻るのでしよう。「魚がのほりやすい川づくり」に大きな期待がふくらみます。



キレンジャク

レンジャク科

東西両半球の寒帯地方で繁殖し、日本には冬鳥として渡って来る。針葉樹や広葉樹の枝の上に、さら状の巣をつくり、繁殖地以外ではつねに群れで行動する。翼17 cm、嘴1・3 cm、尾6・5 cm内外。頭上には長いとがった冠羽があるのが特徴です。チリチリと細い声で鳴き、ヤドリギ、ナナカマドなどの木の実を好む。春先には都市の公園等にも現われることがある。